

令和6年度第2回岡崎市環境審議会 会議録

1 開催日時

令和6年7月31日（水）午後2時から午後4時まで

2 開催場所

岡崎市役所福祉会館2階201号室及び岡崎市一般廃棄物最終処分場（才栗町）

3 内容

- (1) 岡崎市災害廃棄物処理計画の改定について（諮問）
- (2) 岡崎市一般廃棄物最終処分場（才栗町）の視察

4 出席委員の氏名（五十音順）

(1) 会議及び視察の出席委員

石川裕子、今村ひとみ、岩月幹雄、片岡明博（会議のみ）、片山鑛一、河江喜久代、川田奈穂子、阪口奈央、佐々木健吾、杉山範子、鶴田和男、鳥山紀幸、橋本啓史、丸山泰男、渡邊幹男

(2) オンラインによる会議の出席委員

香坂玲、吉永美香

5 説明のために出席した職員の職氏名

(1) 会議

環境部長 加藤元

環境部次長兼廃棄物対策課長 蜂須賀功

廃棄物対策課：副課長 高木祐司、許可監視係長 森本徳恵

ごみ対策課：副課長 泉弘文、副課長 三浦篤

(2) 視察

清掃施設課：課長 蜂屋光生、副課長 鈴木秀幸、副課長 水船一馬、

埋立係長 佐藤卓也

6 出席した事務局の職氏名

環境政策課：課長 雑賀章友、副課長 手島洋二、環境活動推進係長 中村亮太、
主査 小澤有司、主事 伊藤駿

7 議事要旨

岡崎市災害廃棄物処理計画の改定について（諮問）

事務局から諮問内容及び事前質問に対する回答について説明した後、質疑応答がなされた。

(香坂委員)

より広域的な連携・協力についての体制はどのようになっているのか。それは県がやることか。

(廃棄物対策課)

処理計画改定案の12ページの図2-2にあるとおり、広域的な災害は環境省が取りまとめる体制になっている。

(渡邊委員)

災害廃棄物は一般廃棄物となり、それは県は動かないので、広域的な災害に備えて、地域の拠点となる都市、西三河であれば刈谷市などとの連携は取るべきである。

地域集積所に排出される廃棄物は住民もそうだがボランティアが持ってくるものが多いため、ボランティアの動きも規定しないと機能しない。

また、地域集積所の候補地が約90箇所あるとのことだが、それではまだ少ない。想定される場所は公園などだが、町内会同士の連携も進めないとボランティアが動くうえでも排出が進まない。候補地としてはどのようなところが挙げられているか。

(廃棄物対策課)

他の自治体との広域的な連携についてだが、年1回環境省を中心に市町村が参加し災害の模擬訓練を行っている。そういったものを生かして連携を取っていけるようにしたい。

(ごみ対策課)

地域集積所についてだが、候補地は公園、施設の駐車場、公民館の敷地、神社の境内などが挙げられている。委員のおっしゃるとおりボランティアの動きも重要であるため、防災課とも協議していく。

(杉山委員)

昨年豪雨において、この地域で結ばれている連携協定に基づいた動きはどの程度あったか。

(ごみ対策課)

一般廃棄物のステーションの収集に手が回らないところがあったため、廃棄物の収集に関して締結している災害協定に基づいて、収集組合3団体にお申し、1週間程度一般廃棄物の収集をしてもらった。

(丸山会長)

事前質問に関してだが、災害が起きると産業廃棄物が一般廃棄物になるため、いつ誰がどこまで災害であると認定するかが重要になる。産業廃棄物を災害時に一般廃棄物として排出することについてはどのように判断するのか。

(廃棄物対策課)

産業廃棄物はいくまでも産業廃棄物として扱うが、事業系でも実際に被災した地域で災害に起因するものであれば災害廃棄物としての一般廃棄物となる。仮に災害によって産業廃棄物に泥が混じったとすれば災害廃棄物となり得る。

会議資料

令和6年度第2回岡崎市環境審議会次第

岡崎市環境審議会委員名簿

議題1 岡崎市災害廃棄物処理計画の改定について（諮問）

議題1 資料1：災害廃棄物処理計画改定箇所

議題1 資料2：災害廃棄物処理計画改定（概要）

議題1 資料3：岡崎市災害廃棄物処理計画（現行）

議題1 災害廃棄物処理計画案に対する事前質問の回答